

浜田復興副大臣、岩井復興大臣政務官記者会見録

(平成27年2月24日(火) 11:18～11:20 於) 参議院議員食堂)

1. 冒頭発言

(浜田副大臣) 今日からこの参議院会館で、被災地の食材、いろいろな名産品の実際に皆さんに味わっていただいて、ぜひこの機会に。丸4年を迎えますけど、やはり風評と風化との闘いが、被災地支援の大きな目標でありますので、ぜひこの場を広げていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(岩井政務官) 実は私、以前、福島に住んでいたことがありました。懐かしく、喜多方ラーメンを食べさせていただいて、本当においしかったですし、味も昔のまま、本当においしいなと思いました。

また、副大臣が言われたとおり、やはり風評ということについては、「そうではない」ということを、しっかりと、まずは食べて、皆様にお示しできたらと思います。

2. 質疑応答

(問) 副大臣にお伺いします。今日、じゃじゃ麺を召し上がられた中で、何か特に印象に残ったものはありますか。

(浜田副大臣) やはり、岩手の皆さんのソウルフードの味がしましたよね。私、実は「ジャージャー麺」だと思っていたら、「じゃじゃ麺」なんですね。うどんになっていて。やはり今お聞きすると、地元では、お母さん方が子どもたちに振舞うという、そういうものからできてきた、いろいろな。また、喜多方ラーメンも、ある青年の方が考案されたという。地元、地元のいろいろな気持ちが詰まった料理で、確かに復興に向かう元気をいただきました。

(問) 風評というお話もありましたが、やはり被災地産の食べ物というと、どうしても手を出しづらい、そういうふうを感じる方も、まだいらっしゃると思いますが、その壁を乗り越えるには、どんなことが必要でしょうか。

(浜田副大臣) これについては、正確なデータで発信し続ける。そして、やはりこれについては、政府も先頭に立って、こういうフェアを含め、発信を続けることが重要と思っておりますので、また皆様方のお力もお借りしたいと思っております。

(以 上)